

長岡空襲から65年 厳かな中で平成22年度非核平和都市宣言市民の集い開催

平和の誓い・平和祈願祭

平和の森コンサートに1,000名・リリックホール平和フォーラム450名が参加



第686号 2010. 8. 11
連合中越地域協議会
長岡市東蔵王2-2-68
TEL 0258-24-0515
FAX 0258-24-8930
発行人 矢島 良彦
定 価 1部10円



昭和20年8月1日の長岡大空襲から65年を経た8月1日(日)午前8時、平和の森公園で市民など500名が参列し、平成22年度「非核平和都市宣言市民の集い」が開かれ、午後からは「ながおか平和フォーラム」がリリックホールで開催された。前日、7月31日(土)夜には、第16回となる「平和の森コンサート」が開催された。



非核平和都市宣言市民の集いは、参列者全員が黙祷・梵鐘により開会。昭和59年県内で初めて制定された非核平和都市宣言が長岡青年会議所木村理事長により朗読。平和の放鳩。続いて、主催者の森長岡市長からは、広島への中学生派遣や平和市長会議への参画、7月1日に追慕の集いを開催し243名の遺影を前に戦争の悲惨さを語り継ぐ取り組みや、長岡空襲から65年が経過するがその長岡空襲の記憶を語り継ぐ集い等をおし、一人一人が語り継ぐことの大切さと世界平和につげる決意が述べられた。平和像の由来は、新教組佐久間執行委員長が、母の体験も交え語られた。森市長のほかに新教組西野執行委員長等4名が平和像に捧げた。続いて、長岡空襲体験者の柳川氏から、中学2年当時の防空壕堀、グラウンドの耕しが授業だったこと、灯火管制と就寝時もゲートルをつけていたこと、そして8月1日空襲当日の悲惨な体験と親友一家が亡くなった事など切ない話が語られた。広島へ平和の祈りと小学生からヒロシマ代表団へ折鶴が託された。

アニメ「機動戦士ガンダム」のプラモデル「ガンダム」発売30周年を記念した「RG(リアルグレード)」1/1ガンダムプロジェクトが7月24日、JR東静岡駅北側の東静岡広場(静岡市葵区)で開幕。昨夏に東京・お台場で人気だった高さ18メートルの実物大ガンダム像が、新たに右手にビームサーベルを手にした姿に生まれ変わり、ガンダムが発祥の聖地・静岡で一般公開が始まった。▼開幕の来場者数が7月24・25日の2日間で6万人を超え、来年3月27日までの来場者数は、約90万人を見込んでおり、上々の立ち上がりとなっている。

平和フォーラム
空襲を風化させない
ながおか平和フォーラムが、8月1日(日)13時30分からリリックホールで開催された。第1部は、長岡空

れ、中学生代表から平和の誓いを綴った作文が朗読され、市民の集いは閉じられた。また、前夜18時30分から、第16回平和の森コンサートが同公園で開催。会場には長岡市出身の若手ボーカルデュオひなたが、平和を願い熱唱。終わりの平和の森ミュージックスタッフによる演奏とハンドベルの音は、平和の尊さとその誓いとして会場全体を包み込んでいたようだ。

第2部は「長岡空襲を語り継ぐために」と題し、体験者と中高生がディスカッション。体験者の金子さんからは「語り継がなかったら、育てていきたい」

副議長 羽賀 実
「空襲について家族や先生や近くのひと語り合っていくべきだ」等とディスカッション。

第20回新潟県勤労者駅伝大会
NIGATA WORKERS EKIDEN

期日 2010年9月18日(土) 雨天決行
場所 東北電力ビックスフスタジアム 新潟県スポーツ公園内コース
種目 24.4km 6人リレー

連合新潟・新潟県労協

第3部は「平和の捨石」長岡大空襲の意味を探して」と題し、長岡市出身の神父の後藤文雄さんが講演。空襲で私たちは被害者だが、戦争を仕掛けた加害者でもある。罪の無い人は過去を引き受けなければならぬ。過去に目を閉ざさずに長岡から平和の想いを発信してほしいと語られた。

東蔵王2
《No.18》

副議長 羽賀 実

なった。お台場に建設された実物大ガンダムでは、約2カ月で約415万人を動員した▼「ガンダム」製造元の玩具メーカー、バンダイがこれまでに売り上げた「ガンダム」は4億個、すべて「メード・イン・ジャパン」。他社にない加工技術と職人技で、国内生産にこだわっている▼ガンダムが放映されている海外でも、インターネットの知名度が上っているという。競争力のある日本発の「アニメ」と、ものづくりの技。メード・イン・ジャパンの信頼感そのものがブランド価値になっている。

第3部は「平和の捨石」長岡大空襲の意味を探して」と題し、長岡市出身の神父の後藤文雄さんが講演。空襲で私たちは被害者だが、戦争を仕掛けた加害者でもある。罪の無い人は過去を引き受けなければならぬ。過去に目を閉ざさずに長岡から平和の想いを発信してほしいと語られた。

サラリーマン川柳(秘密ごと) 内緒にしててと あちこちに) (流行語 使える頃には 変わってる) (備忘録 書いたところが さがせない) (高齢化 いままでたつても 若造だ)

平和宣言

「ああ やれんのう、こがあな辛(つら)い目に、なんで遭わにゃあ いけんのかいのう」
——65年前のこの日、ようやくにして生き永らえた被爆者、そして非業の最期を迎えられた多くの御霊(みたま)と共に、改めて「こがあな いびせえこたあ、ほかの誰(だれ)にも あっっちゃあいけん」と決意を新たにす8月6日を迎えました。

ヒロシマは、被爆者と市民の力で、また国の内外からの支援により美しい都市として復興し、今や「世界のモデル都市」を、そしてオリンピックの招致を目指しています。地獄の苦悩を乗り越え、平和を愛する諸国民に期待しつつ被爆者が発してきたメッセージは、平和憲法の礎であり、世界の行く手を照らしています。

今年5月に開かれた核不拡散条約再検討会議の成果がその証拠です。全会一致で採択された最終文書には、核兵器廃絶を求める全(すべ)ての締約国の意向を尊重すること、市民社会の声に耳を傾けること、大多数の締約国が期限を区切った核兵器廃絶の取組に賛成していること、核兵器禁止条約を含め新たな法的枠組みの必要なこと等が盛り込まれ、これまでの広島市・長崎市そして、加盟都市が4000を超えた平和市長会議、さらに「ヒロシマ・ナガサキ議定書」に賛同した国内3分の2にも上る自治体の主張こそ、未来を拓(ひら)くために必要であることが確認されました。

核兵器のない未来を願う市民社会の声、良心の叫びが国連に届いたのは、今回、国連事務総長としてこの式典に初めて参列して下さっている潘基文閣下のリーダーシップの成せる業ですし、オバマ大統領率いる米国連邦政府や1200もの都市が加盟する全米市長会議も、大きな影響を与えました。

また、この式典には、70か国以上の政府代表、さらに国際機関の代表、NGOや市民代表が、被爆者やその家族・遺族そして広島市民の気持ちを汲(く)み、参列されています。核保有国としては、これまでロシア、中国等が参列されましたが、今回初めて米国大使や英仏の代表が参列されています。

このように、核兵器廃絶の緊急性は世界に浸透し始めており、大多数の世界市民の声が国際社会を動かす最大の力になりつつあります。

こうした絶好の機会を捉(とら)え、核兵器のない世界を実現するために必要なのは、被爆者の本願をそのまま世界に伝え、被爆者の魂と世界との距離を縮めることです。核兵器廃絶の緊急性に気付かず、人類滅亡が回避されたのは私たちが賢かったからではなく、運が良かっただけだという事実を目を瞑(つぶ)っている人もまだ多いからです。

今こそ、日本国政府の出番です。「核兵器廃絶に向けて先頭に立」つために、まずは、非核三原則の法制化と「核の傘」からの離脱、そして「黒い雨降雨地域」の拡大、並びに高齢化した世界全(すべ)ての被爆者に肌理(きめ)細かく優しい援護策を実現すべきです。

また、内閣総理大臣が、被爆者の願いを真摯(しんし)に受け止め自ら行動してこそ、「核兵器ゼロ」の世界を創(つく)り出し、「ゼロ(0)の発見」に匹敵する人類の新たな一頁を2020年に開くことが可能になります。核保有国の首脳に核兵器廃絶の緊急性を訴え核兵器禁止条約締結の音頭を取る、全(すべ)ての国に核兵器等軍事関連予算の削減を求める等、選択肢は無限です。

私たち市民や都市も行動します。志を同じくする国々、NGO、国連等と協力し、先月末に開催した「2020核廃絶広島会議」で採択した「ヒロシマアピール」に沿って、2020年までの核兵器廃絶のため更に大きなうねりを創(つく)ります。

最後に、被爆65周年の本日、原爆犠牲者の御霊(みたま)に心から哀悼の誠を捧(ささ)げつつ、世界で最も我慢強き人々、すなわち被爆者に、これ以上の忍耐を強いてはならないこと、そして、全(すべ)ての被爆者が「生きていて良かった」と心から喜べる、核兵器のない世界を一日も早く実現することこそ、私たち人類に課せられ、死力を尽して遂行しなくてはならない責務であることをここに宣言します。

2010年(平成22年)8月6日

広島市長 秋葉忠利

平和宣言

被爆者の方々の歌声で、今年の平和祈念式典は始まりました。

「あの日を二度と繰り返してはならない」という強い願いがこもった歌声でした。
1945年8月9日午前11時2分、アメリカの爆撃機が投下した一発の原子爆弾で、長崎の街は、一瞬のうちに壊滅しました。すさまじい熱線と爆風と放射線、そして、燃え続ける炎……。7万4千人の尊い命が奪われ、かろうじて死を免れた人びとの心と体にも、深い傷が刻みこまれました。

あの日から65年、「核兵器のない世界」への道を一瞬もあきらめることなく歩みつづけ、精一杯歌う被爆者の姿に、私は人間の希望を感じます。

核保有国の指導者の皆さん、「核兵器のない世界」への努力を踏みにじらないでください。

今年5月、核不拡散条約(NPT)再検討会議では、当初、期限を定めた核軍縮への具体的な道筋が議長から提案されました。この提案を核兵器をもたない国々は広く支持しました。世界中からニューヨークに集まったNGOや、私たち被爆地の市民の期待も高まったのです。

その議長案をアメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国の核保有国の政府代表は退けてしまいました。核保有国が核軍縮に誠実に取り組まなければ、それに反発して、新たな核保有国が現れて、世界は逆に核拡散の危機に直面することになります。NPT体制は核兵器保有国を増やさないための最低限のルールとしてしっかりと守っていく必要があります。

核兵器廃絶へ向けて前進させるために、私たちは、さらに新しい条約が必要と考えます。潘基文国連事務総長はすでに国連加盟国に「核兵器禁止条約」の検討を始めるように呼びかけており、NPT再検討会議でも多くの国がその可能性に言及しました。すべての国に、核兵器の製造、保有、使用などのいっさいを平等に禁止する「核兵器禁止条約」を私たち被爆地も強く支持します。

長崎と広島はこれまで手を携えて、原子爆弾の惨状を世界に伝え、核兵器廃絶を求めてきました。被爆国である日本政府も、非核三原則を国是とすることで非核の立場を明確に示してきたはずですが、しかし、被爆から65年が過ぎた今年、政府は「核密約」の存在をあきらかにしました。非核三原則を形骸化してきた過去の政府の対応に、私たちは強い不信を抱いています。さらに最近、NPT未加盟の核保有国であるインドとの原子力協定の交渉を政府は進めています。これは、被爆国自らNPT体制を空洞化させるものであり、到底、容認できません。

日本政府は、なによりもまず、国民の信頼を回復するために、非核三原則の法制化に着手すべきです。また、核の傘に頼らない安全保障の実現のために、日本と韓国、北朝鮮の非核化を目指すべきです。「北東アジア非核兵器地帯」構想を提案し、被爆国として、国際社会で独自のリーダーシップを発揮してください。

NPT再検討会議において、日本政府はロシアなど41か国とともに「核不拡散・軍縮教育に関する共同声明」を発表しました。私たちはそれに賛同すると同時に、日本政府が世界の若い世代に向けて核不拡散・軍縮教育を広げていくことを期待します。長崎には原子爆弾の記憶と爪あとが今なお残っています。心と体の痛みをこらえつつ、自らの体験を未来のために語ることを使命と考える被爆者がいます。被爆体験はないけれども、被爆者たちの思いを受け継ぎ、平和のために行動する市民や若者たちもいます。長崎は核不拡散・軍縮教育に被爆地として貢献していきます。

世界の皆さん、不信と脅威に満ちた「核兵器のある世界」か、信頼と協力にもとづく「核兵器のない世界」か、それを選ぶのは私たちです。私たちには、子供たちのために、核兵器に脅かされることのない未来をつくりだしていく責任があります。一人ひとり弱い小さな存在であっても、手をとりあうことにより、政府を動かし、新しい歴史をつくる力になれます。私たちの意志を明確に政府に伝えていきましょう。

世界には核兵器廃絶に向けた平和の取り組みを続けている多くの人々がいます。長崎市はこうした人々と連携し、被爆地と心をひとつにした地球規模の平和市民ネットワークをはりめぐらせていきます。

被爆者の平均年齢は76歳を越え、この式典に参列できる被爆者の方々も、少なくなりました。国内外の高齢化する被爆者救済の立場から、さらなる援護を急ぐよう日本政府に求めます。原子爆弾で亡くなられた方々に、心から哀悼の意を捧げ、世界から核兵器がなくなる日まで、広島市とともに最大限の努力を続けていくことを宣言します。

2010年(平成22年)8月9日

長崎市長 田上富久